

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：懇談会等の開催回数	指標の求め方：懇談会等の開催回数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：協働事業数	指標の求め方：協働事業調査による協働事業数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合計 合計
指標	活動指標 1 (単位/回)	計画値 実績値	1 0	1 1	1 2		1 1	1 1	1 1		1 1	1 1	1 1	1 1		
	成果指標 1 (単位/個)	計画値 実績値	130 131	130 132	130 134		130 130	130 130	130 130		130 130	130 130	130 130	130 130		
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					ほぼ達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					少し上がっている										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない										
	総合評価					普通である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、地域力UP講座の開催を見送ったほか、まちづくり懇談会も実施することができなかった。協働事業についても非常に大きな影響を受けており、さまざまな事業が中止となった。そのような中でも人数制限やオンラインでの開催など、各課で工夫を凝らすことで計画値は維持することができた。	自己分析： まちづくり懇談会については実施することができなかったが、11月に地域力UP講座を開催することができた。協働事業数については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも計画値は維持することができた。	自己分析： 12月に砂川市立病院附属看護専門学校1年生とまちづくり懇談会を実施した。他、12、2月に地域力UP講座を開催することができたため活動指標は目標値を達成した。協働事業数については、昨年度に比べ事業数が増加し成果指標は目標値を達成した。	判断理由： 協働事業数については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも計画値は維持することができた。懇談会等の開催回数については、計画値は維持することができたが、今後は新市長が就任したことを受け、各団体や企業等と意見交換を行い、課題などを共有し相互理解を進めるために協働のまちづくり懇談会を開催することが必要と考えているため「普通である」と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由改善、改革の内容(R5、R8、R10)	R5： 協働のまちづくりを進めるうえで、協働の担い手となる市民をはじめ、市民活動団体等と意見交換を行うことは、市民と市が目的や課題などを共有し、相互理解を図るためにも必要である。また、講座を継続して開催することにより、多くの市民に協働意識の醸成と協働に対する理解を浸透させていくことも必要であると考え。協働事業についても、市民と市がそれぞれの役割と責任を認め合いながら、地域を良くしたり、地域の課題を解決したりする目的のためにも事業数を維持することが必要と考えるため「現状のまま継続」とした。					R8：					R10：					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名: 広報発行回数	指標の求め方: 年間発行回数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名: 取材記事掲載数	指標の求め方: 取材した掲載数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画 合計
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	
指標	活動指標 1 (単位/回)	計画値 実績値	24 24	24 24	24 24		24 24	24 24	24 24		24 24	24 24	24 24		
	成果指標 1 (単位/件)	計画値 実績値	70 99	70 115	70 159		70 99	70 115	70 159		70 99	70 115	70 159		
事業 評価 内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)				上がっている										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)				上がっている										
	総合評価				良好である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析: コロナウイルス感染症により取材機会が減少したものの計画値を上回ることができた。また、他課のイベントや行政情報などを工夫して掲載したことにより、スイートスタンプラリーによる市の経済効果やマイナンバーカードの取得数の増加など様々な効果が出ており、広報の役割を果たしたと考えている。今後も発信に必要な情報を見つけ、取材で得られる情報を伝わりやすい紙面にして届けられるよう工夫していくこととした。	自己分析: 新型コロナウイルス感染症により減少していたイベント等が少しずつ回復傾向にあり、前年よりも取材機会が増加した。また、他課のイベントや行政情報などを工夫して掲載したことにより、スイートスタンプラリーによる市の経済効果やマイナンバーカードの取得数の増加など様々な効果が出ており、広報の役割を果たしたと考えている。今後も発信に必要な情報を見つけ、取材で得られる情報を伝わりやすい紙面にして届けられるよう工夫していく。	自己分析: 広報紙の9月号よりリニューアルをし、フルカラーで発行できるようになったことから、より市民などの写真を掲載して作成することを意識して制作している。そのため、取材回数が増加傾向にある。また、記事に関係する対象者の年齢などから、文章を減らしQRコードからホームページへ繋げて閲覧させるなど、紙面の削減にも意識をして制作することで、経費を抑えることができた。	判断理由: 近年は、新型コロナウイルス感染症によりイベント等が減少していたため、全体的に取材回数は少ないが、計画値は上回っている。また、令和5年度9月より、通年でカラー化をするため修正したところであるが、同時にリニューアルし今までよりも紙面全体の内容をまとめたリ、構成等を組み直すことにより、ページ数を減少させ大幅に予算額を増加させないようとしたところである。現状のまま継続させるが、細かい部分では読みやすさ・見やすさなど伝わりやすい広報紙を目指し改善していきたいと考えている。	自己分析: 自己分析: 自己分析:	判断理由: 自己分析: 自己分析: 自己分析:	自己分析: 自己分析: 自己分析:	判断理由: 自己分析: 自己分析: 自己分析:	自己分析: 自己分析: 自己分析:	自己分析: 自己分析: 自己分析:	自己分析: 自己分析: 自己分析:	判断理由: 自己分析: 自己分析: 自己分析:		
今後の方向性				現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5: 近年は、新型コロナウイルス感染症によりイベント等が減少していたため、全体的に取材回数は少ないが、今後上昇していくものと考えられる。令和5年度9月より、通年でカラー化と同時にリニューアルし、今までよりも紙面全体の内容をまとめたリ、構成等を組み直すことにより、ページ数を減少させ大幅に予算額を増加させないようとしたところである。現状のまま継続させるが、細かい部分では読みやすさ・見やすさなど伝わりやすい広報紙を目指し改善していきたいと考えている。				R8:				R10:						

第 7 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 査

【PLAN】

事務事業の目的と成果

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	×
--------	---	--------	---

事業名	広報事業(施設見学会、砂川を紹介する写真)				事業期間	昭和34 年度 ～ 年度									
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第7期総合計画の位置付け	6-1-2	他に関連する基本事業	—	—	—	—	—	—	所管課係	市長公室課広報広聴係
目的 (何のために実施するのか)	市民がまちづくりの現状や生活関連の公共施設、民間企業の工場などを直接見ることで、砂川市に対する理解を深めるとともに、まちづくりへの関心を一層喚起するため施設見学会を行う。 また、市民参加によるまちづくりの一環として、市民が目にしたり感じたりした砂川を写真を通じてPRし、砂川の良さを市内外の方に広く再発見、再認識してもらう。						手段 (どのような方法で実現するのか)		施設見学会は、広報紙で参加者を募集し、見学当日はバスを借り上げ、市内の施設など5か所程度を見学。 砂川を紹介する写真は、テーマを設け広報誌等により作品を公募し、応募のあった作品を審査のうえ各賞を選考し表彰する。応募のあった全作品は市内各所において展示会を実施し、市民に公表する。						
対象 (誰・何を対象としているのか)	施設見学会は市民、紹介する写真については市外からの応募も可能						成果 (どのような効果が得られるのか)		砂川市のまちをじかに見ることにより、まちづくりの進展を実感したり、砂川を撮影することによって郷土に対する愛着とまちづくりに対する関心が深められる。また、作品を鑑賞することによって、普段何げなく暮らしている砂川を見直すきっかけとなり、まちの良さを再発見、再認識することにつながるとともに市政に対する理解が深められる。						
事業開始時の状況・これまでの経緯	施設見学会は、市民が生活に関連のある市内の公共施設から民間の施設などを見学し、砂川市のまちを実際に見ることによりまちづくりの進展を実感したり、まちの良さを再認識してもらうため昭和34年より実施している。砂川を紹介する写真は市内に限らず市外に居住する方からも公募し、写真を通じて砂川の良さを再発見、再認識してもらうため昭和40年より実施している。平成29年度より、カメラ部門とスマホ・インスタ部門に分け手軽に応募できるようにし、参加者数を増やすよう努めている。平成30年度は、市制施行60周年記念事業として両部門の最優秀賞の賞金を増額して行った。														

【DO】

実績

(単位：円)

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画 計			
		第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合 計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)		実施4カ年 合 計		
投 入 さ れ た 事 業 費 の 推 移	国 道 地 方 債 そ の 他	費 計 画 額				0					0					0	
		予 算 計 上 額				0					0					0	
		実 績 額				0					0					0	
		費 計 画 額				0					0					0	
		予 算 計 上 額				0					0					0	
		実 績 額				0					0					0	
	一 般 財 源	計 画 額	89,000	89,000	89,000	267,000	119,000	119,000	119,000	357,000	119,000	119,000	119,000	119,000	476,000	1,100,000	
		予 算 計 上 額	89,000	100,000	97,000	286,000	119,000			119,000					0	405,000	
		実 績 額	31,000	73,315	86,000	190,315				0					0	190,315	
		事 業 費 合 計	計 画 額	89,000	89,000	89,000	267,000	119,000	119,000	119,000	357,000	119,000	119,000	119,000	119,000	476,000	1,100,000
		予 算 計 上 額	89,000	100,000	97,000	286,000	119,000	0	0	119,000	0	0	0	0	0	405,000	
		実 績 額	31,000	73,315	86,000	190,315	0	0	0	0	0	0	0	0	0	190,315	
事 業 費 の 推 移	事業費予算の内容	バス借上げ料 58千円 写真入賞者用賞品 31千円	バス借上げ料 69千円 写真入賞者用賞品 31千円	バス借上げ料 66千円 写真入賞者用賞品 31千円		バス借上げ料 88千円 写真入賞者用賞品 31千円											
	前年度予算との比較 (増減理由)	バス借上げ料の増	バス借上げ料の増	バス借上げ料の減		バス借上げ料の増											
	実績との比較 (増減理由)	施設見学会中止により、バス借上げ料減。※3月補正▲58千円	施設見学会バス借上げ料の減。※3月補正▲25千円	施設見学会バス借上げ料の減。※3月補正▲11千円													

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名: 開催回数	指標の求め方: 開催回数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名: 参加者数	指標の求め方: 参加者数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合計 合計
指標	活動指標 1 (単位/回)	計画値 実績値	2 1	2 2	2 2		2 2	2 2	2 2		2 2	2 2	2 2	2 2		
	成果指標 1 (単位/人)	計画値 実績値	40 54	40 97	40 41		40 40	40 40	40 40		40 40	40 40	40 40	40 40		
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					上がっている										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない										
	総合評価					良好である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析: 新型コロナウイルスの影響により施設見学会が中止となり、計画値を下回ったが、砂川を紹介する写真のみで54名からの応募があったところであり評価できる内容と考える。引き続き活発な写真展となるよう取り組みを積極的にしていきたい。	自己分析: 施設見学会は、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、時間を短縮し開催したが43名の参加があった。砂川を紹介する写真は54名からの応募があり、どちらも評価できる内容と考える。引き続き活発な写真展となるよう取り組みを積極的にしていきたい。	自己分析: 施設見学会は、13名の参加があり、年度同様に時間を短縮し開催した。砂川を紹介する写真は28名からの応募があったが、周知も少なかったこともあり、数としては伸び悩んだ。成果指標としては計画値を超えているが、どちらも参加者が増えるよう工夫が必要と考えている。	判断理由: 新型コロナウイルス感染症の影響により開催できなかったことを除くと、活動指標、成果指標ともに評価できる数値である。さらに活発な事業となるよう、改善、工夫等しながら取り組んでいるところである。	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:		
今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5: 施設見学会の見学先については、新型コロナウイルス感染症の影響により、5類感染症に移行されたあとも、事業所によっては断られるところもある状況であるが、できる限りまちの動きや状況を把握でき、市民が興味を持つような事業所や施設を見学できるようにしていくこととする。 砂川を紹介する写真については、応募者数を維持し、さらに上げていくためには、宣伝を増やし参加しやすい状況をもっとアピールしていく必要があることから、現在のインスタグラムアカウントを利用して工夫した宣伝となるよう作成し、不特定多数が目にする機会を増やすことが最大の効果であると考えている。 両事業ともに細かい部分での修正、工夫などをしながらより良いものとなるよう継続していきたい。					R8:					R10:					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：開催回数	指標の求め方：開催回数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：参加者数	指標の求め方：参加者数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合 計画
指標	活動指標 1 (単位/箇所)	計画値	2	2	2		2	2	2		2	2	2	2		
		実績値	0	0	1											
指標	成果指標 1 (単位/件)	計画値	30	30	30		30	30	30		30	30	30	30		
		実績値	0	0	11											
事業 評価	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				あまり達成されていない										
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				あまり上がっていない										
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				あまり上がっていない										
		総合評価				普通である										
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 新型コロナウイルス感染症の影響により、企業訪問、「市長と語ろう」については中止となった。情勢を見ながらオンライン配信などの方法も視野に入れ開催することとした。	自己分析： 新型コロナウイルス感染症の影響により、企業訪問、「市長と語ろう」については中止となった。情勢を見ながらオンライン配信などの方法も視野に入れ開催することとした。	自己分析： 「市長と語ろう」は、コロナ後、初めての開催となったが、周知時間が少なかったこともあり、参加者数が思ったように伸びなかった。企業訪問は、市長が代わり、現状、各種団体の行事やイベント等で企業経営者と意見交換する場が多々あることから、ボランティア団体などとの意見交換をする方向で考えている。	判断理由： 近年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、「市長と語ろう」については中止しているところであるが、砂川市立病院附属看護専門学校からの要望もあり市長と生徒との懇談を行ったりしていることから「普通である」とした。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
今後の方向性				現状のまま継続												
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 近年は、新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止していたが、5類に移行されたことにより、市長と語ろう、企業訪問ともに開催しやすい状況になってきている。企業訪問については、この間市長が変わったことから、また1から訪問する態勢となったが、市長の意向を踏まえながら選定し行っていくこととする。					R8：					R10：					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：新メニューの数	指標の求め方：出前講座における新たなメニューの数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：開催回数	指標の求め方：開催回数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画 合計
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	
指標	活動指標 1 (単位/箇所)	計画値 実績値	5 5	5 12	5 9		5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5	5 5		
	成果指標 1 (単位/件)	計画値 実績値	24 8	24 10	24 17		24 24	24 24	24 24	24 24	24 24	24 24	24 24		
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				あまり達成されていない										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)				上がっていない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)														
	総合評価				普通である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 新メニューの開設数は計画値どおりであるものの、開催数は計画値を下回った。新型コロナウイルス感染症の影響により、緊急事態宣言下などで開催ができた状況になかったこと、市立病院の講座が開催できなかったことなどが要因である。	自己分析： 新メニューの開設数は計画値を達成しているものの、開催数は計画値を下回った。新型コロナウイルス感染症の影響により開催できなかったことや申し込み後に中止としたことなどが要因である。	自己分析： 新メニューの開設数は計画値を達成しているものの、開催数は計画値を下回った。コロナ後、開催回数が増加傾向にあることから、引き続き各課の協力を得ながら行うこととしたい。	判断理由： 活動指標は計画値を達成しているも、近年の新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、成果指標を達成することができていない。良いとも悪いとも判断ができないことから普通と評価した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
今後の方向性				現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 近年は新型コロナウイルス感染症の影響により、開催することができない状況が続いていたが、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に引き下げられたことから、今後はこれまでよりも開催するにあたって容易になると考える。そのため、開催数も徐々に上がっていくと見込み「現状のまま継続」と判断した。				R8：				R10：						

第 7 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	×
--------	---	--------	---

事業名	ホームページ管理事業（市ホームページ・市公式LINE）				事業期間	平成12年度 ～ 年度									
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第7期総合計画の位置付け	6-1-2	他に関連する基本事業	—	—	—	—	—	—	所管課係	市長公室課広報広聴係
目的 (何のために実施するのか)	わかりやすい広報機能を充実させるとともに、タイムリーな情報をより多くの方に提供する。							手段 (どのような方法で実現するのか)	各課で作成した情報などを、インターネットを通じて市政情報などを提供する。						
対象 (誰・何を対象として誰のか)	インターネットの利用者							成果 (どのような効果が得られるのか)	常に新しい市政情報を分かりやすく提供し、多くの方に利用されることにより市政に対する関心や理解が高まる。						
事業開始時の状況・これまでの経緯	平成12年10月に開設、当初は広報広聴係が一括情報発信していたが、平成14年度に地域イントラネットの整備により情報通信基盤の高度化を図り、平成15年4月にホームページをリニューアルし担当課・係からも直接情報発信を行う体制となる。なお、平成18年度よりバナー広告の有料掲載を開始している。さらに平成21年9月、平成28年3月にアクセシビリティの向上、スマートフォンでの閲覧に対応させることなどを目的にリニューアルし、全体のページに統一感が出るよう様式を定め運用を行っている。 令和2年11月より、防災情報や緊急情報のみで使用していたLINEアプリケーションの運用を変更し、イベントや事業などの情報もお知らせし、さらにホームページの該当ページにもリンクし閲覧できるよう一体的に運用している。														

【DO】

実績

（単位：円）

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画	
		第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合 計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合 計		
投 入 さ れ た 事 業 費 の 推 移	国 費	計 画 額				0				0					0	0
		予 算 計 上 額				0				0					0	0
		実 績 額				0				0					0	0
	道 費	計 画 額				0				0					0	0
		予 算 計 上 額				0				0					0	0
		実 績 額				0				0					0	0
	地 方 債	計 画 額				0				0					0	0
		予 算 計 上 額				0				0					0	0
		実 績 額				0				0					0	0
	そ の 他	計 画 額				0				0					0	0
		予 算 計 上 額				0				0					0	0
		実 績 額				0				0					0	0
一 般 財 源	計 画 額	1,883,000	1,883,000	1,883,000	5,649,000	1,883,000	1,883,000	1,883,000	5,649,000	1,883,000	1,883,000	1,883,000	1,883,000	7,532,000	18,830,000	
	予 算 計 上 額	1,883,000	1,883,000	1,883,000	5,649,000	1,883,000			1,883,000					0	7,532,000	
	実 績 額	1,882,034	1,882,034	1,881,716	5,645,784				0					0	5,645,784	
事 業 費 合 計	計 画 額	1,883,000	1,883,000	1,883,000	5,649,000	1,883,000	1,883,000	1,883,000	5,649,000	1,883,000	1,883,000	1,883,000	1,883,000	7,532,000	18,830,000	
	予 算 計 上 額	1,883,000	1,883,000	1,883,000	5,649,000	1,883,000	0	0	1,883,000	0	0	0	0	0	7,532,000	
	実 績 額	1,882,034	1,882,034	1,881,716	5,645,784	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,645,784	
事 業 費 予 算 の 内 容		・ 消耗品費9千円 ・ 保守点検委託料950千円 ・ 情報発信使用料924千円	・ 消耗品費9千円 ・ 保守点検委託料950千円 ・ 情報発信使用料924千円	・ 消耗品費9千円 ・ 保守点検委託料950千円 ・ 情報発信使用料924千円		・ 消耗品費9千円 ・ 保守点検委託料950千円 ・ 情報発信使用料924千円										
	前年度予算との比較 (増減理由)	情報発信使用料の増	前年度同額	前年度同額		前年度同額										
	実績との比較 (増減理由)	消耗品の減	消耗品の減	消耗品の減												

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：新規ページの開設数	指標の求め方：新規ページの開設数 (各課の事業周知ページを除く)
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：アクセス数	指標の求め方：年間総セッション数 (全ページ合計)

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合計 合計
指標	活動指標 1 (単位/箇所)	計画値 実績値	2 6	2 5	2 3		2 2	2 2	2 2		2 2	2 2	2 2	2 2		
	成果指標 1 (単位/件)	計画値 実績値	400,000 618,132	415,000 711,643	430,000 739,951		445,000	460,000	475,000		490,000	505,000	520,000	535,000		
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					上がっている										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない										
	総合評価					極めて良好である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 新型コロナウイルス感染症関連の情報の更新が多く、緊急事態宣言中は特にアクセス数の増加がみられた。また、各課のイベントや新たな取り組みや事業の情報に繋がりがやすいようトップページにあるバナーを定期的に更新することにより、アクセス数が増えたと考えている。	自己分析： クマ出没状況や新型コロナウイルスの影響による学校閉鎖の状況などでアクセス数の増加が見られた。また、各課のイベントや新たな取り組みや事業の情報に繋がりがやすいようトップページにあるバナーを定期的に更新することにより、アクセス数が増えたと考えている。(スイートスタンプラリー、紹介する写真、職員募集の新規ページ開設。)	自己分析： ホームページのセッション数は、グーグルのアナリティクスを使用しているが、R5.10月よりバージョンが変更になったことにより、収集方法が変わり、セッション数はこれまでより減少することになったため、前年からの伸び率も減少している。(スイートスタンプラリー、紹介する写真、職員募集の新規ページ開設。)	判断理由： ホームページの新規ページの開設や、新型コロナウイルス関連を含む災害などの情報提供など、必要な情報を効果的に発信できたと考えている。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： ホームページの新規ページの開設や、新型コロナウイルス関連を含む災害などの情報提供など、必要な情報を効果的に発信できたと考えており、また、LINE公式アカウントで発信する際に、詳細をホームページで閲覧するようリンクさせたりしているため、アクセス数が伸びている。今後も迅速に詳細を情報提供するためには欠かせないツールである。					R8：					R10：					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：発行回数	指標の求め方：市勢要覧本編、資料編発行回数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：配布部数	指標の求め方：配布部数(年度によって配布部数が異なるため計画値の設定はしない)

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合計 合計
指標	活動指標 1 (単位/回)	計画値 実績値	1 1	— —	2 2	2	— —	1 —	—	2	— —	— —	1 —	—		
	成果指標 1 (単位/部)	計画値 実績値	— 308	— 249	— 281	—	— —	— —	— —	—	— —	— —	— —	— —	—	
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない										
	総合評価					普通である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 市勢要覧資料編については2年ごとに作成しており、令和3年度においても作成を終えている。市勢要覧を庁舎1回エントランスに配置することにより、来庁者による持ち帰りが多くなったところである。	自己分析： 配布部数は、本編149、資料編100となっており、昨年同様、庁舎1回エントランスに配置することにより、来庁者による持ち帰りが多くなっているところである。	自己分析： 市勢要覧の本編、資料編をともに作成を終えている。令和6年3月に発行し、配布は令和6年度から行っている。成果指標の実績値は前回の本編267部、資料編14部の合計である。	判断理由： 近年ではコロナ禍の影響もあり、市外から砂川への視察や道外での説明会などが減り、配布部数としては減となっている。ただ、ホームページやアプリ(カタログポケット)からも本編をデータで見ることができるとはしない。なお、令和5年度は、予定どおり本編と資料編の発行を予定している。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 情報媒体がスマートフォンやタブレットなどの加速的普及の中でネット環境が大幅に向上しており、ホームページやアプリ(カタログポケット)からも閲覧できるようになっているが、議員視察や職員募集説明会などの市の施策をPRするため即時に見ることができる紙媒体の市勢要覧も重要である。自前で制作するDTP方式を継続し、経費削減をしながら効果を発揮していきたい。					R8：					R10：					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：発行回数	指標の求め方：発行回数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：配布部数	指標の求め方：配布部数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合 計画
指標	活動指標 1 (単位/回)	計画値 実績値			1				1				1			
	成果指標 1 (単位/部)	計画値 実績値			8,600				8,600				8,600			
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)															
	総合評価					極めて良好である										
	評価内容	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析：	自己分析：	自己分析： 当初の予定どおり、民間企業と共同で制作し、広告収入で発行したため経費はかかっていない。令和5年3月に発行し、広報委員の協力により市内に全戸配付を行った。	判断理由： 市の制度や各種届出、施設情報などに電話帳がついていることで、利便性が高いものと考えている。また、民間企業と共同で制作しており、広告収入で発行していることから経費がかからず、令和5年度においても全戸に配布することができている。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
	今後の方向性					現状のまま継続										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 市の制度や各種届出、施設情報などに電話帳がついていることで、利便性が高く、さらには民間企業の広告収入で発行していることから経費がかからず、令和5年度においても広報委員により全戸に配布することができている。引き続き定期的なスパンで発行していくこととする。				R8：				R10：					